

1 活動名 木場公園「防災公園の取組みについて」

2 調査の目的

(1) 本市における課題

本市では公園はあるものの、防災公園として整備されている公園は、本庄公園、城東公園などがあるが、規模も小さく対応が遅れている。

(2) 調査の必要性

先進地を視察し、本市の参考とする必要性がある。

(3) 調査項目

・防災公園の規模 ・整備状況 ・発災時の対応

3 調査地選定理由

(1) 東京都江東区 木場公園

初災時、避難所としての機能を持ち、防災公園として、先進的な整備がされているため。

4 調査結果

(1) 2023年7月12日

木場公園内江を案内していただき、かまどベンチ、防災トイレ、揚水ポンプ、自然エネルギーを使った街灯、など説明を受けながら視察しました。

(2) 出席者 4名 上條美智子 近藤晴彦 内田麻美 大久保美由紀

(3) 成果・所感等

松本市内には防災公園がないため、信州スカイパークなど広さから考えるといいのではないかとと思うが、県の施設になるため検討が必要。市の公園でも検討すると良い。震災時の時間の経過により、必要とされる用途が変わるため、ボランティアの活動補助スペースや生活物資集積輸送補助スペースなど、受け入れ態勢がしっかり決まっているとスムーズに利用できる。また、がれき集積場所も必要となるため、決められた場所を周知できれば混乱せずに済む。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 159,610円【宿泊費 100,800円(13,600(7/12)、11,600(7/13)×4人)】

【交通費 55,960円(13,990×4人合計)】

【入場料 950×3人】

1 活動名 「ドナルド・マクドナルド・ハウス」視察

2 調査の目的

(1) 本市における課題

松本地域は、医療機関に恵まれたところであるが、子どもの長期入院、治療に関して、遠方からの保護者が近くで安心して過ごせる施設がない。

(2) 調査の必要性

実績のある施設を視察し、参考にする必要性がある。

(3) 調査項目

- ・遠方からの保護者・家族の利用状況について
- ・施設の運用について

3 調査地選定理由

(1) 世田谷区 公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス 様

長年にわたり、運営され、全国にも同施設がある 視察する意義は大きいと考える。

4 調査結果

(1) 2023年 7月12 日

(2) 出席者 4 名

上條美智子 近藤晴彦 内田麻美 大久保美由紀

(3) 成果・所感等

20年以上経過している施設だが、非常にきれいに使われている。現登録約170名のボランティアさんが24時間365日施設運営に携わってくださっているとのこと。だから、続いてきたのではないかと。流しも、ボランティアが毎回きれいに磨いているので、とてもきれいだ。利用料は、本人・保護者は無料。家族は一日1000円という、低額で利用できる。部屋も整理整頓がされ、気持ちよく宿泊できる。緩和ケアもそうだが、通常はこうした施設は財政的な部分が非常に難しいのだが、ほとんどボランティアで賄われていることそして、決して無理をしていないことが継続性の大きなカギとなっていると感じた。松本市も、主体的に応援してくださる企業が望まれる。

5 政務活動費

- | | |
|----------|-----------|
| (1) 使途項目 | 調査旅費 |
| (2) 支出額 | 7/12 別紙参照 |

1. 活動名

東京都千代田区 科学技術館

2. 調査の目的

(1) 本市における課題

本市にも科学博物館はあるが、一般客が観覧しているというイメージがない。

(2) 調査の必要性

テーマ展示の工夫や、時代と共にどのように変化をさせているか参考にしたい。

(3) 調査項目

体験型の展示について

3. 調査地選定理由

科学技術館・・・子供たちの見学利用も多いことから、魅力ある展示はどのようなものであるかを知っておくため。

4. 調査結果

(1) 実施日 2023 年 7 月 13 日

(2) 出席者 3 名 近藤晴彦、内田麻美、大久保美由紀

(3) 科学技術館

館内概要・・・2 階から 5 階までの 4 つのフロアに、約 20 のテーマの展示室があり、展示物を見るだけでなく、触ったり動かしたりしながら、科学や技術に触れることができます。実験ショーや体験型プログラムも開催する。

◎2 階・・・ワクエコ・モーターランド（車が走る仕組み）、ものづくりの部屋

◎3 階・・・電気ファクトリー（電気と磁石と力）、ニュー・エレクトロホール（サイバー・リンク、電機・電子・情報・通信）、アトミックステーション ジオ・ラボ（原子力、放射線を見てみる）、くすりの部屋（薬の歴史や新薬の開発、安全な使用方法について紹介）

◎4 階・・・シンラドーム、鉄の丸公園 1 丁目（鉄鋼）、実験スタジアム（濾過で地球の水について考える、繊維の不思議、光と色の実験室）、建設館（建設現場をイメージした展示室でタワークレーンやシールドマシンの操作など建設に関する様々な体験ができる）

◎5 階・・・FOREST・・・遊び、創造、発見の森「FOREST」。フォレストの展示には説明がなく、いろいろな遊び方・楽しみ方を自分自身で探り、創り出す体験をしてみる。メカ（歯車や滑車などメカに欠かせない部品の仕組みや働きを、体全体を使って実感で

きる)

オプト (光の持つさまざまな性質を見つけ出す)、ワークス (大きなシャボン玉や竜巻発生装置などが並ぶこの部屋は、展示を作ったり、実験を考えたりする場所)、サウンド (音は耳に聞こえるだけでなく、さまざまな姿を描き出す)

(4) 成果・所感等

あらゆる展示物に直接触れられることが多いので、子供たちの興味が湧きやすく科学に興味を持てるきっかけとなるといいと思います。視察当日は小中学生の団体客が見学に来ていたこともあり、どのフロアも賑やかでしたが、5階のコーナーは説明というより大型シャボン玉を作ったり、ピアノの鍵盤を自分たちで踏むことで音が画面に投影されるなどの体験型が人気がありました。

近年、学校現場で理科離れなどという声も聞かれるため、子供たちの理科や科学に対する興味が少しでも復活できると良いと考えます。

松本市の科学博物館はプラネタリウムはあるが、他の展示などはあまり魅力がないように感じるので、集客は今後も難しいのではないかと。展示などのバージョンアップはどの程度されているのか。

秋にオープンする市立博物館は、体験型の展示など今後どの程度取り入れられるか、また子供たちの興味が湧く展示方法などにも期待をしたいところです。

5. 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 7/12 参照

—以上—

1 活動名 国政研修（環境省・厚生労働省）

2 研修の目的

(1) 本市における課題

- ア 2050 カーボンニュートラルを宣言し施策を進めているが、全体としてのGX（グリーントランスフォーメーション）の取組みが遅いのではないかとと思われる。
- イ 様々なワクチン接種について助成制度の導入の要望がある。国の動向を見る中で自治体独自の助成制度の導入には限界がある。

(2) 研修の必要性

- ア 全国の先進的なGXの取り組み事例を学び、本市の施策の参考とする必要がある。
- イ 様々なワクチンの定期接種化へ向けた国の審議会の検討状況を知っておく必要性がある。

(3) 研修項目

- ア 今後の自治体におけるGXの取り組みについて
- イ HPVワクチン、带状疱疹ワクチンの定期接種化へ向けた取り組みについて

3 研修内容

- (1) 日時 2023年7月13日 14:00～16:00
- (2) 会場 第1衆議院議員会館第6会議室
- (3) 出席者 3名 近藤晴彦 内田麻美 大久保美由紀
- (4) 内容

- ア 自治体のGXは今後一層進む。国としては2030年までに少なくとも100カ所の「脱炭素先行地域」を作る計画。その事例を全国に展開し2050年を待たずに脱炭素を達成することを目指している。2023年2月までに62地域が選定されている。あらゆる地域類型（山間、住生活エリア、ビジネス商工業エリア等）での取り組みを選定、内容も様々で全国の参考となる取組みを網羅する狙いがある。
- イ 定期接種化を検討しているワクチンは現在6つある。今回は、HPVワクチンの男性への接種及び、带状疱疹ワクチンについて聞いた。HPVワクチンについては、現在様々な実例、実際の効果等のファクトシートの作成を国立感染症研究所に依頼中。带状疱疹ワクチンについては、その疾病負荷について一定程度明らかになったが、引き続き効果や導入年齢について検討が必要とされている。

(5) 成果・所感等

- ア 自治体GXの事例に本市の取組み（乗鞍）が紹介されている、その他全国の様々な事例を知ることが出来た。本市での取組みの参考となる内容について、引き続き調査研究していきたい。
- イ ワクチンの定期接種化は、まだまだ時間がかかることが分かった。HPVワクチンの男性への接種は、かなり先になるのではないかと感じた。

4 政務活動費

- (1) 使途項目 調査旅費
- (2) 支出額 7/12 参照

【活動報告書】

1 活動名 ・伝統を活かしたまちづくりと地域再生

2 調査の目的

(1) 本市における課題

伝統ある城下町として、内外から多くの観光客が訪れるが、近代的な建物が林立し、城下町風情を感じられないとのお声も多く寄せられる。

(2) 調査の必要性

近代化が進み、城下町としての風情が失われつつある本市において、最近松本城
や

駅周辺を中心にエリア分けをした街づくりが進められている。

この整備が、松本市の観光行政において、今後大変に重要になることから

先進地域の取り組みを学び、反映させていく必要がある。

(3) 調査項目 伝統を活かしたまちづくりへの整備の仕方

3 調査地選定理由

(1) 川越市 平成 15 年に中核市に移行し、伝統的な街並みを有するという意味では

(2) 本市と近い環境にある。しかし「小江戸」としての街並み整備 により、関東エ
リアを中心に若い女性が多く訪れるという川越市は、城下町風情を失いつ
つある本市において参考になることが多いと考える。

4 調査結果

(1) 実施日 令和 5 年 7 月 14 日

(2) 出席者 4 名 近藤晴彦、上條美智子、内田麻美、大久保美由紀

(3) 川越市 (令和 5 年 7 月 14 日)

(4) 成果 所感等

有名な蔵造の街並みは、川越の大火により耐火性が証明され、明治以降に数多く造られました。昭和後期には取り壊しなど進みましたが、市民による保存運動が起こり、行政と連動して、平成初期に地中化が進められ、平成11年に国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。市民から自発的に運動が起こり、行政がそれを後押しするという形は、理想的であり、街並み整備が進んだ一番の要因だと感じました。また、有名なこの通りだけでなく「川越城エリア」「喜多院エリア」という、それぞれの特性を3つのエリアに分け、周遊してもらうという取り組みは、松本市と近い考え方であり、1つ1つのエリアの魅力という点では、松本も負けず劣らずで、もっと強気に打ち出していいと感じました。

しかしながら、実際に街歩きをしている人の多さや、魅力的なお店が並び、そこでの消費行動を見るにつけ、松本市には足りないものが沢山あると感じました。

松本は、これからの街並みづくりに「歴史的な薫り」や「散策したくなる小道の整備」「買い物がしたくなるお店」などを、民間の方を主導に行っていく必要があると感じました。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 7/12 参照